絆深めマナーや文化継承

スポーツを通じた社会貢献活動をテーマにした「社会貢献フォーラム」が３月５日、松山市立子規記念博物館であり、市民ら約300人がその役割や可能性について考えた。全日本社会貢献団体機構、愛媛新聞社、全国地方新聞社連合会主催。

スポーツ通じた社会貢献とは　松山でフォーラム

「スポーツから学ぶコミュニケーション力」

スポーツジャーナリスト　二宮　清純さん

●基調講演

プロ野球16球団構想を考えている。セ、パ両リーグの12球団を4球団増やす。セ・リーグ東地区は巨人、ヤクルト、横浜と新球団一つ。同西地区は阪神、広島、中日とあと一つ。パ・リーグ東地区は日本ハム、楽天、西武、ロッテ。同西地区はオリックス、ソフトバンクとあと二つ。

地元密着「クラブ」作ろう

球団を増やした方がプロ野球はパイが拡大するし、地域に娯楽が増える。米国のメジャーリーグは、エクスパンション（球団拡張）したことで、利益が拡大し、分配する構造ができた。ポストシーズンゲームが増え、たいへん盛り上がる。

スポーツで大切なのはハラハラ、ドキドキ、ワクワク。レギュラーシーズンの日常性に、非日常性をどのように付け加えるか。メジャーリーグはそれに成功し、多額の放映権料を獲得した。それによって選手に高い年俸を支払い、ウインウイン（双方に利益のある）の関係をもたらした。

４球団をどう入れるか。日本にはまだ野球の空白区がある。例えば、セ・リーグ東地区は北信越の新潟。金沢でもいい。同西地区には松山を入れよう。パ・リーグ西地区の一つは静岡。残り一つは南九州か沖縄。インターリーグだから交流戦で全チームが対戦する。

松山の本拠地は当然、坊っちゃんスタジアム。選手は独立リーグの選抜チームをベースにし、エクスパンション・ドラフトで既存球団からも分配してもらう。

これまでは、地方で育てた選手を東京や大阪などにもっていかれていた。これからはスポーツも地産地消の時代。自分たちの選手の受け皿を自分たちで用意して楽しむ。そして、子や孫に文化的財産を残していく。

どうすれば、スポーツは広がりをみせるか。私は「正三角形の論理」と呼んでいる。最も大事なのは底辺で「普及」。種をまき、子どもにスポーツを好きになってもらう。２番目が「育成」で、３番目が「強化」。

さらに、複数のスポーツをやることが大切だ。世界で活躍する選手をみると、いろいろな競技を経験した選手が多い。

日本では世代間の絆が弱まり、コミュニティーが崩壊しつつある。スポーツクラブがないことも一因ではないか。世界を取材しての個人的な印象だが、「チーム」は目的達成のために集まった集団。地域密着型の「クラブ」は家庭のようなもので、原則として解散はない。日本でもチームからクラブへの移行が必要だと思う。

この国は、学校教育は比較的しっかりしているが、その後、いきなり社員教育になり、社会教育が抜けている。スポーツクラブにはさまざまな職種、年代の人が集まるので、マナーや道徳、地域の文化なども教えられる。

スポーツが変われば、地域が変わり、日本が変わる。

「スポーツで築く地域の輪」

田中雅美さん

●パネルディスカッション

松田　人と人との心という活動。選手らがのふれあいが減る中自分の経歴を含め、どで、スポーツを通じたうやって夢を実現した社会貢献活動の役割やかを子どもたちに話可能性を考えたい。す。田中さんも「夢先

久賀　プロサッカー生」の活動で、全国各クラブ・愛媛FCの社地の小学校を訪れてい会貢献活動を紹介するそうだが。

田中　1時間はレクる。一つは日本サッカー協会のプロジェクトリエーションで交流の一環で、「夢先生」互いの距離が縮まし、1時間は授業で夢あこがれの選手も挫を乗り越えてきたと知折り、子どもたちはいっそう身近に感じる。

次に、愛媛FC独自の「給食先生」というになる。愛媛FCのあ始まった歴史ある大会について語り合う。運活動がある。選手が児動選手は夢をかなえる童と一緒に給食を食ために、真っすぐ順調べ、昼休みに遊び、掃に進むわけではなく、除をする。フォワード悔しい思いをすること の福田健二選手（新居も多い。それをどう乗浜市出身）の場合、娘り越えたかを話し、子さんが2人いるだけに、児童らに優しく話し掛けているときは、まさに父親の顔だった。後日、児童が試合を観戦した際、ストライカーに戻った姿を見てファンになる。

こうした機会は、子どもたちが自分の夢を実現しようという励みになる。愛媛FCのある選手は、子どものころにあこがれの選手とふれあったことでプロを目指し、実現した。

松田　県遊技業協同組合の取り組みを紹介してほしい。愛媛マラソンに協力しているそうだが。

川井　1963年に始まった歴史ある大会で、昨年からコースを変えて規模も拡大。今年は5千人以上が参加した。昨年から実行委員会に入って人的、資金的な協力をしている。当日は、加盟店の従業員が沿道の整理をさせてもらうなど、参加者の応援もしている。

組合では一昨年、ヤクルトスワローズの元選手4人を招いて教室を開き、少年野球、少年女子ソフトボールの10チーム、約190人が参加。基礎技術はもちろん、取り組みの姿勢や礼儀作法まで、青少年育成に主眼を置いた内容だった。

川井義廣さん

加盟店が地域密着の貢献活動として、スポーツ大会に協賛している事例もある。県ビーチバレーボール連盟主催の「エコカップ」や、新居浜市でのママさんレクリエーションバレーボール大会などが大切だ。県内でも、複数の競技に取り組むスポーツクラブが誕生している。そういう動きを取材して、県民に広く伝えたい。

田中　これからも子どもたちのため、皆さんの健康や生きがいのために、スポーツを通じた活動を楽しみながらやっていきたい。

二宮　夢と現実はワンセット。現実を直視して努力したその延長線上に、夢の実現がある。個人と組織も矛盾しない。ウインウインの関係を構築すべきだ。スポーツはみこしと同じ。誰か1人が手を抜けば上がらない。皆が支え合う仕組みづくりが急務だ。

〈パネリスト〉
スポーツコメンテーター・シドニー五輪　競泳銅メダリスト　田中　雅美さん
愛媛県遊技業協同組合理事長　川井　義廣さん
愛媛新聞社編集局運動部　久賀　大輔記者
スポーツジャーナリスト　二宮　清純さん
〈コーディネーター〉
東京農業大学客員教授・元NHKアナウンサー　松田　輝雄さん

選手は夢語る先生役

松田輝雄さん

松田　地方のイベントに行くと、皆さんがたいへん喜んでくれる。「都会と違い、選手に会う機会が少ない」とよく言われるが、選手と身近にふれあう機会は、意外と地方の方が多い。子どもたちのために協力して何かしようという心のつながりが強く、機会が増えているのだと思う。

3回オリンピックに出場した中で、シドニーの400㍍メドレーリレーが最も印象に残った。メンバーに「この4人なら必ずメダルがとれる」と励まされ、思い切って泳ぎ、銅メダルをとれた。

水泳は個人競技と思われがちだが、一人では結果を出せない。仲間や指導者、支えてくれる家族、友人の力があって、喜びにつながる。そうした思いを子どもたちに伝えたい。

毎日新聞社 編集局運動部記者
久賀大輔記者

二宮　教育のことを考えたら、ルールを守る子からルールをつくる子へ、というのがキーワードになる。日本人はルールをよく守る不都合が生じたら変えてみなさい―と、子どもたちに教え、トレーニングしておかないと、国際競争の現場で戦えない。

松田　最後にまとめや感想を。

川井　上部団体の全日本遊技事業協同組合連合会は、社会貢献活動を非常に大切にし、さまざまな分野で実践している。今後、スポーツを通じての活動をさらに積極的に進めたい。

久賀　小さいころからいろいろなスポーツを体験し、社会性やルールを身につけることが大切だ。県内でも、複数の競技に取り組むスポーツクラブが誕生している。そういう動きを取材して、県民に広く伝えたい。

田中　これからも子どもたちのため、皆さんの健康や生きがいのために、スポーツを通じた活動を楽しみながらやっていきたい。

二宮　夢と現実はワンセット。現実を直視して努力したその延長線上に、夢の実現がある。個人と組織も矛盾しない。ウインウインの関係を構築すべきだ。スポーツはみこしと同じ。誰か1人が手を抜けば上がらない。皆が支え合う仕組みづくりが急務だ。

〈広　告〉

AJOSC

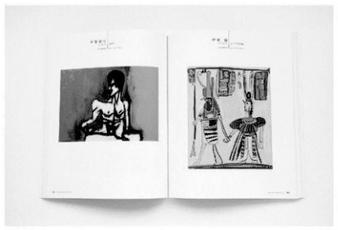
全日本社会貢献団体機構は、全国のパチンコ・パチスロホール組合の連合会組織である全日本遊技事業協同組合連合会（全日遊連）を母体として2005年12月に設立された任意団体で、学識経験者、文化人、政財界関係者が参加し、平和で住みよい社会づくりに貢献する事業への助成や社会貢献活動の顕彰を主な活動としています。

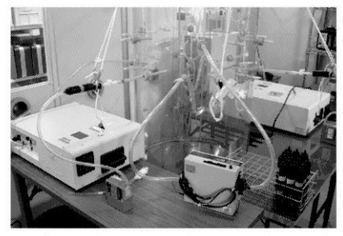
私たちは、社会に役立ち必要とされる研究や事業、活動をサポート・応援しています。

助成事業

今日の社会に最も必要とされる研究や事業に助成する活動は当機構の設立趣旨の根幹であり、中心事業です。
1. 学術・文化の振興、2. 命を大切にする研究・活動、3. 子どもの健全育成に関する事業を中心とした３つの分野において最も社会が必要としている事業を選び助成を行っています。

◆平成 21 年度助成事業（実績の一例）
1.「2009 アジア・パラアート TOKYO」事業　財団法人 日本チャリティ協会
2.「アスベストリアルタイムモニタリング装置の性能に関する研究」事業　東京大学大学院 新領域創成科学研究科 柳沢研究室
3.「『チャイルドライン』広報啓発強化」事業　NPO 法人 チャイルドライン支援センター


1.「2009 アジア・パラアート TOKYO」事業


2.「アスベストリアルタイムモニタリング装置の性能に関する研究」事業

3.「『チャイルドライン』広報啓発強化」事業

顕彰事業

会員の社会貢献活動を顕彰し、今後一層の活動を期待して、年間で最も優れた社会貢献活動に「社会貢献大賞」を授与することとし、平成 17 年から実施しております。

第３回　社会貢献大賞
「在阪外国人留学生に対する奨学金の支給等支援」事業
大阪府遊技業協同組合

第４回　社会貢献大賞
「福祉関係施設への備品等寄贈」事業
和歌山県遊技業協同組合

第５回　社会貢献大賞
「『夢まるふぁんど』を中心とした総合的社会貢献」事業
千葉県遊技業協同組合

全日本社会貢献団体機構　TEL.03-5227-1047 http://www.ajosc.org